

7月下旬に始まり一週間で自動車25万台も販売する大反響を呼んだCARS (Car Allowance Rebate System), 別名Cash for Clunkers (オンボロ車の為の現金)は予算が7月末で枯渇、更に倍額の予算が議会で急遽、承認され、この政府の買替え支援金によって、8月になって、低燃費車の在庫はほぼ一掃(これはトヨタの一人勝ち、8月の売上台数は130万台、前月比26.5%UP、日本勢のシェアは約45%)、これを起爆剤に低燃費車に乗換えが加速されています。(プリウスなどは予約が殺到、半年先待ち状態)自動車販売が線香花火に終わらず、これをきっかけに景気も本格的に回復して貰いたいです。(U.S. Economy get lift from Stimulus) このCARSのお陰で、約75万台のScrapが一挙に出る事になりました。(別添写真参照)

但し、日本車と言えども、3万ドル以上の高級車の在庫は以前、高水準で、便乗して、大幅値引き(車種によって\$4,000)して販売している様ですが、芳しくありません。

世界の金属価格はここ数年、暴騰/暴落を繰り返していましたが、

上述の様な米国のSCRAP資源の安定供給(URBAN MINING)によって、産業の基盤が根底から揺さぶられることがなくなって来ています。

鉱山開発は

- ① 発見から鉱石の出荷まで10年以上かかる為、昨今の急激な需要の伸びに即応出来ません。
- ② 又事故、労働争議、紛争により操業が安定しません。
- ③ 天然資源は有限で、多くは発展途上国に偏在しています。
- ④ M&Aが活発化し、非鉄MAJORによる寡占化が進み市場支配が進んでいる。
- ⑤ HEDGE FUNDのFUND MONEYが参入し、投機商品にされている。この為、実需によらない価格変動が起こり、安定したMARKETが形成出来なくなっています。

従って、①～⑤の理由で、今後資源の安定確保の為にはURBAN MININGが必要不可欠となります。この資源のリサイクルを市場BASEに乗せるのは精錬技術力と言えます。このチャーハン(産業廃棄物)を処理する技術を持っているのは日本とベルギーにある会社だけです。困ったことに米国には銀シャリ(鉱石)だけしか、処理する能力の会社しか、今のところありません。

